

様式1

令和3年度 学校評価表

学校教育目標		自他を尊重し、主体的に学び続ける子どもの育成		
a ミッション	組織的な学校経営と小中連携による主体性・表現力の育成	a ビジョン	(1) 自他を尊重し、これからの社会をよりよく生きるための能力を身に付けさせる。 (2) 保護者・地域から信頼される学校になる。 (3) 教職員の総力を挙げた組織的で機能的な教育活動の推進を図る。	

尾道市立因北小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値	達成度			イ	ロ	ハ		
主体的に学び続ける児童を育てる。 自他を尊重し、よりよいものを求め表現する児童を育てる。	課題意識を持ち、自ら課題を解決しようと粘り強く取り組み合う姿。	・基礎となる学力を高めるために「きめる」「表す」「見つめ直す」授業づくりを進める。	・国語・算数の単元テストにおける知識・技能が定着している。	80%	国語 87% 算数 83.8%		108 104		<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の平均で見ると、国語科、算数科ともに、目標は達成した。 学年別で見ると、算数科について達成できていない学年がある。単元によって定着にくい学習内容がある。 3、4、6年生は、県からの加配により、算数科で少人数指導を行っている。課題のある児童への支援ができていないので、さらに効果を高める方法を考えたい。 知識・技能の定着のための手段として、タブレットの活用もし始めているので、児童が意欲的に学びを積み上げるようにしていく。 	○		<ul style="list-style-type: none"> タブレットの活用で学習の意欲が高まっている。 各教科を点数化して目標値を設定して、それぞれの教科が到達しているかどうかを判断するのは、とても明確でよいです。学年による達成率のバラつきについては、各先生方が児童に対して教科のフォローを行い、再度課題等を行い、勉強の良い循環をつくる必要があると思います。 児童がタブレットで楽しそうに学習していた。タブレットは、あくまで疑似体験なので、直接体験ができる状況に早くなればよいと思います。 少人数指導やタブレット、大型モニターの活用もされており、良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上については、「授業改善」「個別対応」「取組の工夫」がポイントとなる。 「授業改善」…子供達が「なぜ?」「どうして?」「知りたがり」「わかった!」と考える授業づくりを目指し、「個別対応」…一人一人が何に困っているか、どこで躓いているかを把握する。 「取組の工夫」…チャレンジタイムで学習の土台づくりを行う。家庭学習を主体的に取り組めるように工夫する。 授業における効果的なタブレットの活用について研究していく。特に、児童の考えを表現させ、交流させる場面の充実を図る。 	
	自分たちで、学校や社会を充実(楽しく)させるために行動する姿。	・学習や経験を活かす行事や特別活動等において児童が課題意識を持ち、自ら考え、行動できるような場の設定、指導をする。	・体育的行事(1学期:運動会、2学期:持久走大会、3学期:なわとび大会)や学習発表会に向けて、一人一人が努力目標を持ち達成している。	90%	80%		89		<ul style="list-style-type: none"> 1学期は、運動会が中止となったため、体育的行事において、一人一人が課題意識を持ち、努力目標をもって取り組むことができなかった。 児童会行事や学級活動等において、児童が課題意識を持って取り組む場面を設定した。 学校行事を通して得られるか、意欲、学級集団づくり等ができていないことが残念な部分なので、2学期以降の体育的行事の充実を努めたい。 	○		<ul style="list-style-type: none"> 児童会が積極的な取組をしている様がよくわかり、全体に良い影響が広がればよいと思います。 コロナ禍での児童の体力低下が心配です。(運動会延期中止、夏のプール授業、えんじゅんの練習縮小、熱中症指数上昇による体育授業の延期、休憩時間も外出制限や自宅でも外出制限もあるため) 体力テスト結果に、コロナ禍で子供達が思うように動き回れない状態が表れている。 コロナ対策をしながら難しいと思いますが、継続してまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事が中止や縮小となることが今後も予想されるので、児童会や学級での取組を考えていく。 体力テストの結果を基に、夏季休業中に研修を行ったので、課題が克服できる白米の取組を積み重ねていく。 児童会を中心とした取組を積極的に設定するとともに、指導の充実を図る。 	
	自分の考えを持ち、自分の意志でよりよい判断をする姿。	・自他とともによりよく生活するために3つの宝を行動に移す。 ・自分がしてもらっていることに気付かせ、それに感謝するとともに、感謝の気持ちを返すことまでを考えた単元づくりや取組をする。	・3つの宝を意識して行動している。	90%	91%		101		<ul style="list-style-type: none"> 児童の3つの宝への意識が高まっており、目標を上回ることができた。 特に、あいさつをする姿が増え、地域からも子供達のがんばりをほめていただく声が増えた。 はきものそろえについてはや課題がある。靴箱の整理整頓はできているが、トイレのスリッパは、揃っていない状態が多い。 掃除は、黙って隅々まできれいにする学年とそうでない学年の差がある。教員の指導の仕方に差があるので、掃除の監視ではなく、掃除指導ができるようにしていく必要がある。 	○		<ul style="list-style-type: none"> 3つの宝委員会の活動成果が上がっているようです。あいさつ、掃除等は、各家庭においての影響が大きいと思います。保護者をきめての意識を高めてほしいと思います。 主観が入りますが、私は経営者として従業員のほうき、ちりとりを使い方で、その従業員がどんな生活スタイルで生活していたかを一部推測しています。これが良い悪いではなく、一緒に仕事をしていく中で、ほうき、ちり通りの使い方が良い方は、正確丁寧な仕事をすると思っています。(再度追記しますが、あくまでも主観です。) 「3つの宝」定着の取組に成果がある。(特にあいさつ) できていることは評価し、さらにやる気にさせるような取組が良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 3つの宝に対する課題意識を子供達に持たせ、児童発信で取組を進める。教職員とともに、モデルとなる。 子供達のがんばりを積極的に褒め、しっかりと声掛けをし、自己肯定感を高めるようにする。教職員は、優のがんばりを認めながら、全体へ広げていく。 	
相手意識を持ち、場に応じた表現、説得力のある表現、感謝の気持ちを表現する姿。	・表現の目指す姿を具体的に設定し、その実現に向けて、組織的に統一した指導を行う。	【「学びの変革」アンケート】 ⑧授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表の工夫をしています。 ⑨授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	80%	71.1%		88		<ul style="list-style-type: none"> ⑧の項目については、68.4%と目標を大きく下回った。 自分の考えを述べること、理由を明らかにして相手に分かりやすく伝えること、発表の工夫をしていることどこに課題があるのかを明確にしていく必要がある。 ⑨の項目については、目標を上回った。 コロナ対策をしながらではあるが、ペアやグループで相談、解決する場面を取り入れている。自分の考えを持ち、友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、それを柔軟に受け入れながら、自分の考えを深めたり広げたりすることを続ける必要がある。 	○		<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを思いやれる人となるよう、日々の取組を継続していくことが大切だと思います。 自分の考えを相手に伝えることは、とても重要で、とても難しいです。 ①自分の伝えたいこと(理論)を明確にする。 ②相手にわかりやすく例を出して説明する。(ゆくりと話し、大きな声でわかりやすくする。) ③相手にしっかり聞いてもらう環境づくりをする。(少し笑いを取り、興味を持ってもらう等) ④自分の考えがしっかりと相手に伝えられない場合は、再度、話し方や吟の出し方を工夫する。 引き続き発表方法について工夫をお願いいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が課題意識をもつことができる導入の工夫、教材の準備をする必要がある。それを基に自分の考えを持たせるようにする。 タブレットを活用し、友達の考えを参考にしたり、自分の考えを表現させたりさせる。多くの情報を取り入れたら、参考にしたりしながら、自分の考えを持ちたり、再考したりすることを繰り返す。 電子黒板を活用してプレゼンできる機会を増やす。 課題を探究する過程を大切にしていける。特に、地場を活用した総合的な学習の時間の充実を図ることで、友達と一緒に課題を解決することを楽しめたい。つけたい力を明確にし、学習のストーリーを描くことができる単元開発を行っていく。 		

【自己評価 評価】
 A: 100 ≤ (目標達成)
 C: 60 ≤ (もう少し) < 80

B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。